

宇都宮市立桜小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をした児童が9割を超えている。今後も、学校生活全体を通して、自己肯定感が高められるような活動を充実させていきたい。

○「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的な回答をした児童の割合が85%を超え、県や国を上回っている。今後も、総合的な学習の時間などを通して、キャリア教育の実践を継続していきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をした児童が10割である。今後も、いじめゼロ強調月間の実施や、ほめほめ賞の活動、道徳等での指導や活動を継続して実施していきたい。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的な回答をした児童が10割である。今後も、縦割りでの清掃活動やなかよし班活動等を充実させていき、より主体的な活動を実施していくことで、お互いのよさを実感し認め合える活動を継続して実施していきたい。

○「家で学校の宿題をしていますか」に対して、肯定的な回答をした児童が9割を超えていて、県や国を上回っている。「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して、「している」と回答した児童の割合が3割を超えてはいないので、今後も自主学習の計画表などを活用してより主体的に学習に取り組めるようにしていく。

○算数の学習に対して、「好きですか」「大切だと思いますか」「内容はよく分かりますか」等の質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合が、それぞれ県や国を上回っている。今後も、少人数指導の充実や主体的な学びを継続していきたい。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」に対して、約85%の児童が肯定的な回答をしていて、県や国も上回っている。今後も、話し合い活動や学び合いの場を確保して実施していきたい。

●「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をした児童の割合が、県や国を下回っている。学級活動等の時間での指導だけでなく、学校生活全体を通して、児童がより主体的にきまりやルールに関して考え実践できるようにしていきたい。

●生活面「朝食・寝る時刻・起きる時刻」に対しては、県や国の割合を下回っている設問が多かった。保健の時間や家庭科の時間の学習と関連させながら、指導を充実させていきたい。

●地域や社会への関心はあるが、実際に新聞を読んだり、地域の行事に参加したり、ボランティア活動に参加した児童の割合は県や国より低くなっている。教科の学習の中で、新聞等を活用したり、地域の行事等を紹介したりする時間も充実させていきたい。

宇都宮市立桜小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
つかむ、学び合う、まとめ、振り返るを活用した学びのスタイル「さくらの学び」の充実	すべての学級に学びのサイクルを掲示し、授業で継続実施している。振り返りに重点を置き、ポイントも明示しノート等に書く時間を設けている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」に対して、約85%の児童が肯定的な回答をしている。「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」に対して肯定的な回答
家庭学習の定着に向けた指導の工夫	年2回の「学習がんばり週間」を実施し、家庭と連携して望ましい家庭学習の習慣作りに努めている。「自主学習のやり方」「自主学習記録表」も学年の発達段階に応じて活用を始め	「家で、学校の宿題をしていますか」に肯定的に回答した児童の割合は98%を超え、県や全国の平均も上回っている。「家で自分で計画を立てて勉強していますか」「している」と回答した児童の割合が3割を超えてはいない。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4・5年生の質問紙から、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と回答した児童の割合が県や全国の平均を上回っていた。授業の中でも自分の考えを伝えたり、書いたりするのが苦手な傾向が見られる。	子どもたちの考えを効果的につなげたり、深めたりするための対話的・協働的な活動の充実	ペアやグループなどの学習形態を工夫して、課題の解決に向けて互いにアドバイスや助言し合う場を設定し、対話的・協働的に解決し合うことができるようにする。